特集❷ ヤマハ発動機ジュビロRWC戦士に聞く

ラグビー観戦がもっと面白くなる！

特別対談 山村亮選手×矢富勇毅選手

ラグビーワールドカップ2019™をより深く楽しむために、地元のチーム、ヤマハ発動機ジュビロ所属のRWC出場経験者、山村亮選手と矢富勇毅選手にお話を伺った。

山村亮　YAMAMURA RYO
1981年8月9日生　佐賀県出身
2004年 関東学院大学からヤマハ発動機ジュビロへ
ポジション：プロップ
出場歴：RWC2003オーストラリア大会／RWC2007フランス大会

矢富勇毅 YATOMI YUKI
1985年2月16日生　京都府出身
2007年 早稲田大学からヤマハ発動機ジュビロへ
ポジション：スクラムハーフ
出場歴：RWC2007フランス大会

RWCの舞台―この場に立つだけで感極まるものなんだと心打たれたことを鮮明に覚えています（矢富）

当時のメンバー発表は、どんな感じでしたか？またそのときのお気持ちは？

山村：２００３年のオーストラリア大会のときは、大学の監督から「メンバーに入ったぞ」と聞かされました。大学生でまだ若かった僕は「入れなかったらキャプテンとしてチームでがんばろう」と割り切っていましたが、素直にすごくうれしかったです。実際に出場して世界のすごさを知ってからは「４年後も絶対に出たい」と思いました。２００７年のフランス大会のときは合宿の終わりに、メンバー選考の結果を聞くために順番に並び、ひとりずつ面談室で聞かされました。前回大会のときとは違い、４年間そこに焦点を当て目指してきたからこそかなり緊張しました。聞いたときは、うれしさよりもとにかくホッとしましたね。

矢富：フランス大会のときは、僕はヤマハに入社したばかりでした。発表のときは亮さんと一緒でしたよね。「え？こんな感じで発表されるの？」という感じで僕もドキドキでした。僕の場合、ずっとＲＷＣは遠い存在でしたが、学生のとき急に調子が上がって、一気に

ＲＷＣが近づいたんです。急だったので、亮さんのように４年間という道のりはなかったのですが、つかめるチャンスが見えてきたときは「絶対行きたい」と気持ちが高まっていました。でも、まだ合否を聞いてない選手たちが並んでいましたから、心の中でガッツポーズして退室するときは冷静を装っていました（笑）。メンバー発表の仕方は、今ではスタイルが変わってきているようですが、当時は合宿終わりにその場で聞かされるって感じでしたね。

ＲＷＣには31人しか行けないから、各ポジション、日本で１番か２番の人が選ばれるわけです。合宿で５番目くらいまでの選手たちが集まり、ふるい落とされて、最終的に31人になります。４年に１度ですから、選手たちはそこに照準を合わせていかないといけません。ケガなどで、選考の場にも立てない選手ももちろんたくさんいます。選考には所属するチームの状況も重要ですよ。チームの強い弱いも、評価の対象としてすごく関わってきますから。

ＲＷＣへ出場してみていかがでしたか？

山村：オーストラリア大会の１戦目はスコットランド戦。僕はメンバー外で、見ているだけでも、しびれるような緊張を感じました。残り10分までどっちが勝つか分からない激戦で「これがＲＷＣか…」と感動しました。そして２戦目のフランス戦。今回も出番はないかと思っていたところ、試合の２日前くらいに先発メンバーだと言われました。僕はプロップというポジションで、スクラムに自信を持っていたのですが、フランスのスクラムには衝撃を受けました。ラグビーを20年やっていますが、そのときのフランス代表のスクラムほど強いと思ったことは今までありません。その世界のすごさを目の当たりにしてからは、自分の意識は一気にあがりました。次の４年に向けて「もっと体を大きくしないと！」と、とにかく必死になりましたよ。

矢富：フランス大会の１戦目はオーストラリアで、２戦目はフィジー。なか４日と短期間だったため、日本代表は完全２チーム制で出場しました。前回大会とは違い、前もってどの試合で自分が出場するかが決まっていたため、亮さんのフランス戦のような緊張はありませんでした。しかし開幕試合、あの強いオーストラリアの選手たちが整列しながら目を潤ませている姿を見たときは震えましたね。「ＲＷＣはそういう舞台なんだ…この場に立つだけで感極まるものなんだ」と心打たれたことを鮮明に覚えています。

現地の雰囲気はどうでしたか？

山村：フランス大会の盛り上がりはすごかったよね。まるで自分たちのホームみたいに、会場のボルテージが一気に上がる感じでした。試合ももちろんですが、移動中などの場面も本当に感動しましたよ。

矢富：会場まで行くのもパトカーが先導して、後ろに換えのバスまでついて、ヘリが飛んでいて。どこへ行くにも白バイが付き添い、信号まで止めて…。とにかく扱いがすごかったです。ウェールズは馬車が先導していましたよ。

今回は世界各国から選手たちに来てもらう番です。僕らが出場選手として、すばらしい歓迎に感動した分、日本ならではのおもてなしでお返しをしたいですね。そのためにも皆さんにすばらしい大会だと理解してもらい、国が一丸となりベクトルをあわせていければ良いですね。

お二人の、今大会への取り組みとは？

山村：ワールドカップイヤーは矢富選手とよく一緒に活動していました。小学校でラグビー教室をしたり、ショッピングモールでトークショーしたりね。普及活動は県西部がメインでしたが、東は伊豆まで行きました。全校で40人という小学校にも行きましたが、少人数が故、ひとりひとり密に触れ合え、すごく喜んでもらえました。

矢富：やっぱりこちらから足を運んで、知ってもらうことは大切だと思いました。浜松、湖西、磐田はたくさんやってきたけど、時間を作って東部への活動も広げていきたいです。東部には知ってもらうことが大事で、西部にはより好きになってもらうことが必要。ＲＷＣをうまく使ってラグビーの面白さを伝え、盛り上げていきたいです。そしてワールドカップイヤーだけでなく、これからも継続していきたいですね。

日本代表チームは、世界的に見ていかがですか？

山村：前回のＲＷＣ２０１５で、世界の日本を見る目がガラッと変わりましたよね。僕もあの戦いには理屈なしに感動しました。そのあと３勝したのに決勝に進めなかったから、今度こそ初のベスト８を勝ち取りたいですね。まずは開幕のロシア戦。この結果によって次なる試合のエネルギーが変わってきますから、ここでとれだけ応援してもらえるか、非常に大切です。ロシア代表も日本をくってやろう！と挑んできますから、簡単な試合にはならないでしょう。それを上回る気持ちで勝って、日本中を巻き込み、良い雰囲気でスタートできるといいですね。そして、その勢いで２戦目のアイルランド戦でビッグチャレンジしてほしいと思います。

矢富：そうですね。世界はもう僕たちを格下と見下すことはないですから、相手は格上か、同等レベルと思ってくるわけです。だから日本はそれ以上を目指していかないといけない。前回の大会で日本の実力を世界に知らしめたからこそ、かなりのプレッシャーがかかる大会になると思います。ましてや開催国ですから、本当に頑張ってもらいたいですね。そして僕たちも精一杯盛り上げ、１人でも多く観戦してもらえるように努めたいと思っています。僕たちが出場したときに感じた、あの「輝き、盛り上がり、熱量」を日本でも実現し、「この国でやって良かった！さすがジャパン！」と感動を与えたいですね。だからこそ僕たちも、地域の代表として全力でサポートしていきます。みんなで盛り上げていきましょう。

開幕のロシア戦。日本中を熱気で巻き込んで最高の雰囲気でスタートしてほしい（山村）